

ふりかえる1989年



- 1月**
- 新年名刺交換会(5日)
 - 消防出初式(8日)
 - 町内32カ所で塞ノ神行事(15日)

- 2月**
- 今冬の最高積雪深を記録(77cm・4日)
 - 諏訪井で住宅火災(6日)
 - 童歌・雪遊びの話を聞く会(18日)

- 3月**
- 積雪0cm(1日)(17日までの降雪累計392cm)
 - 少雪のため雪まつり中止(12日)
 - 雪とくらしの写真展(12~31日)
 - 上小国小学校創立20周年記念式(26日)

- 4月**
- 森光疎水碑(史跡)など4点を町文化財に指定(1日)
 - 青柳保氏(桐沢出身)、町に1億円を寄付(21日)
 - 森林公園オープン(23日)
 - 春風に泳ぐ鯉のぼり300匹(下村・30日)



- 5月**
- ステーキハウス八石オープン(3日)
 - 小国町成人式(100名出席・3日)
 - 森光で住宅火災(9日)
 - 「ミス・ふ〜ど新潟」が表敬来町、食と緑の博覧会をPR(9日)
 - 芸術村開村一周年記念で前進座の「さんしょう太夫」公演(20日)
 - 3kmのフラワーロード、花いっぱい運動スタート(23日)

- 6月**
- 町民体育大会(11日)
 - 小国農協カントリーエレベーター竣工式(16日)
 - 春季消防演習(18日)
 - ロマンモティエからスイスワイン第1便が到着(20日)
 - 駐日スイス大使館・ホーデルー等書記官来町、ステーキハウス八石でワイン開封式(26日)



- 7月**
- 小国芸術村で現代巨匠写真展を開催(25日~8月30日)
 - ジャンボ雪だるま出現、火災予防をPR(消防署小国分遣所)
 - 町立診療所建設着手(29日)

現代巨匠写真展会場

期間/平成元年7月25日(火) ~ 8月30日(木)
10:00AM ~ 5:00PM

入場料/大人300円 小中学生150円

- 8月**
- ジャンボ和紙(4.65m×2.50m)、「小国始紙」を東京の紙商が芸術村で製作
 - サマーフェスティバル・渋海川川下り(14日)
 - 森林公園夏まつり(14~16日)
 - 上小国中学校同窓会、記念碑建立(15日)
 - 小国生物友の会、「小国の植物」刊行(27日)
 - カントリーエレベーター初稼働(30日)

- 9月**
- 東京・武蔵野市と友好交流に合意(1日)
 - ピエール・オベール版画展(芸術村会館・10日~10月15日)。オープニングセレモニーにオベール夫人来町(9日)
 - 人形劇「ピノッキオの冒険」小国公演(15日)



1回 おぐに女性大会



- 10月**
- 東京・中野まつりに出店(7~8日)
 - 第1回おぐに女性大会(8日)
 - 立教大学応援ツアー(神宮球場・8日)
 - 小国町交通死亡事故0日、731日達成(2年間死亡事故ゼロ・9日)
 - 巫子爺サミット。近隣市町村8団体が参加、競演(15日)
 - 秋季消防演習(15日)
 - 国際姉妹都市スイス・ロマンモティエ町を町長他4名が公式訪問(20~26日)
 - 小国合宿の成果、立教大学野球部23年ぶりのリーグ優勝(21日)
 - 中高層建築物消防演習(27日)
 - 棋士・高橋道雄八段(両親が小国町出身)来町(28日)

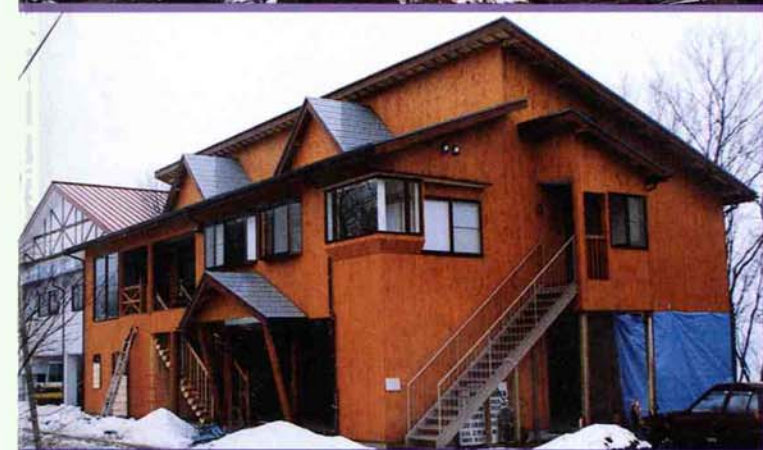


- 11月**
- おぐに秋まつり(3日)
 - 町の面積0.22km²増えて86.15km²に(国土地理院発表・10日)
 - 東京・おさしの青空市に初出店(12日)
 - 15番目の渋海川渡河橋、新三桶橋建設着手(14日)
 - 地域活性化体験発表会(19日)
 - 中曽根橋開通(28日)
 - 初雪(30日・10cm)

- 12月**
- 太郎丸郵便局新築落成式(13日・18日から新局舎で業務開始)

広報

おぐに

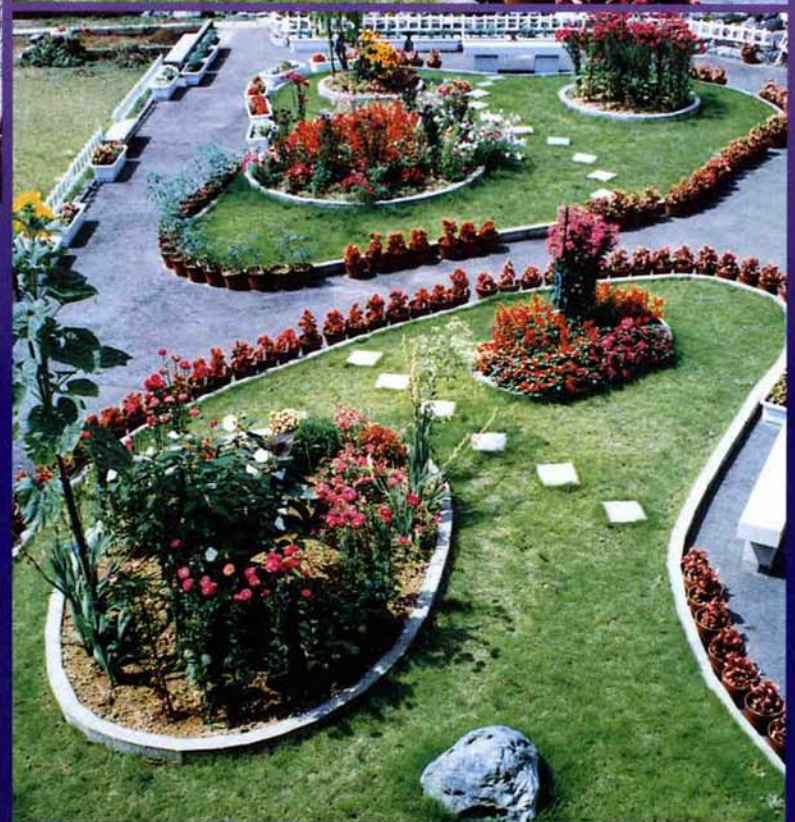


↑民俗資料館(上)と森林公園休憩施設

平成2年オープン
民俗資料館
森林公園休憩施設

迎春

1990年
No.249
1/1号



↑小国中学校中庭の花壇

平成元年
ふるさと花いっぱい運動
「四季の花壇」コンクール
花いっぱい大賞 小国中学校



新年のごあいさつ

小園町長 牧野功平

町史に残る特筆すべきニュースとしては、カントリーエレベーターの稼働開始、町立診療所、民族資料館などの建設、地区民待望の中曽根橋の竣工などがあります。

国際姉妹都市スイスロマンモティエや国内における文化、スポーツ交流、友好都市との交流を一層深めた年でもありました。

夏の水不足と秋の長雨は大変なご苦労でありましたが、カントリーエレベーターの利用率や、良質米比率の確保など市場性にも十分貢献いただき各位のご協力に心から感謝申し上げます。

国の新年度予算は景気好調を背景に赤字国債の解消と財政再建達成を大きな目標としております。

国県依存体質の強い当町にとって、このようなときこそ、予算の重点的な配分や財政体質改善など厳しい対応が必要であると考えております。

雪国における地域資源を生かした活性化対策について、コンサルを委託し、昨年はその提言を受けております。

本年度の地域おこし会議では、21世

紀のまちづくりに向けて、体験研究発表会や意見交換を行ない「農」や「伝統文化」を基本とした「縁づくり」の大切さ、価値観の見直しなど、多くの町民各位から地域活性化の手法を学んでいただきました。

町民が共に休養し、交流や情報交換の場にまた既設の拠点施設に連動し地域観光に有機的に機能するような施設が望まれております。

いずれにいたしましても「光と緑と愛に満ちた小国」をテーマに克雪対策など課題は山積みいたしております。住民各位の共通理解を求め、議会の皆様とも十分協議のうえ、21世紀にアプローチする、地域活性化の方向を見定めて参りたいと存じます。

緑の大地や伝統文化を守り育て、後世に引き継ぐことの大切さをかみしめ小国に生まれ育つことに誇りをもてる地域づくりが私達の使命であります。

本年もみなさまの変わらざるご指導とご叱正をお願いいたすとともに、ご健勝を祈念申し上げご挨拶といたします。

新春を迎え町民の皆様のご健康とご多幸を祈念し謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

過ぎ去った1989年を振り返ってみますと6月に知事選挙、引き続き参議院選挙が行われ、消費税や政治不信などがいずれもその焦点となりました。

国内の政治情勢は波乱の途をたどり、参議院で与野党の逆転、8月には海部内閣の誕生へと引き継がれました。外には改革、統一、協力へと世界は激動し地球規模で起る課題に、日本の役割が問われる時代でもあります。

三年続きの小雪で近年にない穏やかな初春で明け、老いも若きも共に手を携へ心暖まる福祉に、躍動するスポーツ、薫り高い文化活動など息づく地域の活動がありました。

新年のごあいさつ

小園町議会議長 大橋義治

明けましておめでとうございます。お元気で良いお年をお迎えのこととお喜び申し上げます。新しい年を迎えるにあたりご挨拶申し上げます。

ご承知のようにソ連のペレストロイカによる政治改革路線が東欧諸国に広がり民主化と改革のなかで戦後世界を二極化してきた東西関係が清算され世界が新しく生まれ変わろうとしております。国内ではリクルート、消費税や農政不信等により保革逆転という厳しい審判があり激動の年でした。

三月には過疎地域振興特別措置法が期限切れとなります。当町のような過疎市町村には、厳しい高齢化と若年層の定住対策等財政上の特別措置を強く要望しております。今後の過疎対策のポイントは地域社会の担い手である若者の住む気を起こし、お年寄りにも安心して暮らせるようにする施設の充実であります。若者の就労の場の確保は周辺市町村への道路整備とともに広域的には安定してゆく方向にありますが、観光レクリエーション事業等地域資源を活用した地場産業の育成に努力しな

ければなりません。

ふるさと創生事業は、住民参加により使い道を自由に考えるという点で多くの論議を呼び起こしています。当町では森林公園を核に芸術村、八石ステーキハウス、法末校の跡地活用による自然学習施設等の整備も完成し、事業の進展がみられます。いずれにしましても要は人材育成と民間活力の導入が基礎でありこれらの問題に積極的にとりくまなければなりません。

戦後民主主義の要として発足した地方自治制度は四十年の歴史を重ね、議会制民主主義の理念のもとに充実強化が図られて参りました。国民意志の統合のためには地域住民の意志の統合が先決であり、二十一世紀の町づくりが国主導ではなく地域主導で「自ら考え自ら実践する」自治の原点に立つて行われるために、地方議会の奮起が望まれるところでもあります。地域住民の代表機関として、常に住民とともに地域を見直し、自らの地域にふさわしい町づくりを実践して行かねばならないと思っております。



去る10月20日、国際姉妹都市を親善訪問いたしました。美しい自然とぶどう畑と牧草地が都市と調和した素晴らしい国でありました。山岳国家でありながら国土の4分の3は可耕地で、牧草地がとぎれることなくつづき、スイス人が何世紀にもわたって造りあげた人工の絨毯だともいわれています。

スイスの地方制度は有権者が議決に直接参加する総会制度があり、議会の任命する支配人が行政を執行する議会支配人制度です。地方制度調査会ではこれ等も検討されています。私共議会人は責任感と使命感を自覚し、住民の信託にこたえるために努力してまいります。ご指導ご鞭撻を伏しお願い申し上げます。

昭和64年・平成元年 小園町5大ニュース

トップニュースは カントリーエレベーター稼働 第1位…185点

11月号の折り込みで募集した小園町5大ニュースに応募いただいた方、大変ありがとうございます。応募いただいた51通により、昨年同様のポイント制で5大ニュースの選定を行いました。

トップニュースは、カントリーエレベーターの竣工、稼働で、昨年の5大ニュースの2位にカントリーエレベーターの着工が入っており、いかに町民の感心の高い事業であったかを伺えます。秋の長雨によって、その印象がさらに強まったとも思われます。第2位はステーキハウス八石のオープン。町内初の本格的レストラン。地場の和牛を提供することや、八石山麓の尾根に出現したログハウス風の建物、スイス直輸入のワインの話題性は、充分だったと言えます。第3位はスイスの姉妹都市ロマンモティエへの公式訪問。国際交流を着実に1歩進め、みなさんの意識の中に、外国人と接することや、国際化という時代の波といったものを身近なこととして伝えたのではなかったでしょうか。第4位は暖冬小雪、雪まつりの中止で、雪が少ないことは異変で、大きなニュースとなる地域性が現れています。むろん冬期間において話題の中心は小雪であることだったのはまぎれもない事実でした。第5位

▶やはり大きい存在です



第2位 ステーキハウス八石 オープン…163点

は町立診療所の建設で、今年度町の重点施策として進められている事業で、5月には新しい施設で診療を開始する予定です。

次点は中曽根橋竣工(43点)、続いて民俗資料館の建設(32点)となっています。

5大ニュースピタリ賞は該当者なしでしたが、3大ニュースと5つのニュースを当てた方7名に賞品(昨年より高価)を差しあげます。



◀和牛ステーキとスイスワインもう口にされましたか



第3位 ロマンモティエを公式訪問 ……131点

▲ロマンモティエを見渡せる丘の上でG・アムスティン町長と牧野町長

第4位 暖冬小雪……76点

第5位 町立診療所の建設…47点

▼建設進む町立診療所



◀暮の神(どんど焼き)は土の上で(七日町地区)

21世紀に向けた おぐにのまちづくり

先月号に引き続き、地域活性化体験研究発表の内容を紹介いたします。

小国和紙生産組合の活動

片桐 三郎

労力と立地条件に照らして、共同作業により小国和紙の生産を主体とし、地域の就労の増加をもって農林家所得の増大に努めることを目的としています。

組合をつくるきっかけは、私達は大工で、今も大工をやっているわけですが、冬は出稼ぎに行かなければならない。出稼ぎは自分が自分でなくなるようなところがあって、冬も小国にいて生活ができないものかと考えていました。また、なぜ小国和紙かということですが、私達が始めるころ小国で和紙を漉いていたのは、二人おられ、一人は今も若野島で和紙を漉いている中村英一さん。もう一人は最近山野田から柏崎に出られた江口ミンさん、ヨシさん、昭吾さんの一家、江口ミンさんというのは、紙漉きの業界では有名な方で、小国の人あまり知らないけれど、紙漉きをやっている人は全国の人がみんな知っているということだった。その江口さんが、ご主人が出稼ぎ先で亡くなられ、紙漉きをやめるとい話を聞いていました。出稼ぎ先での仲間と金にはならないけれど（紙漉きは）どうだろうかという話をしました。そんな中で58年に農村定住促進事業で補助を受けられるということで、生産施設をつくりました。初期の計画は1,260万円の設備投資の予定でしたが、私達も経験がないので、あとから生産に必要なものが出てきて1,800万円からの投資となりました。よその産地をみてまわる中で、小国の紙の特徴はどんなところから出ているのかというところから出てくる雪と小国で育った原料のコウゾがそれを支えてい

るのではないかと考えたわけです。60年に法坂に1.25haの用地を借用してコウゾ畑の造成に取り組み、一年目はちょっと失敗し、昨年からやっと収穫できるようになりました。昨年の収穫は3tほどでした。和紙の原料となるのは、この3%くらいでしかありません。人件費の占める割合が非常に高い仕事です。大工の仕事はわかるけれど、紙漉きの仕事はぜんぜん知らないという状況ではじめたもので、気ばかりあって、技術的な部分は非常に遅れていた。今でも、文化庁の文化財調査官に、「片桐さんは、全国に多くの紙漉きがいる中で、口で紙を漉いている方だからね」といわれるような状況です。しかし、以前山野田で紙漉きをやられていた方から来ていただいて技術を学んだり、女房が町の保育園に努めていたのをやめて高知の方へ研修にいつてきたりしております。

生産の方ですが、最初は紙を漉くのは冬期間だけでしたが、現在は夏場でも紙を漉いたりコウゾの肥育をしたりで、通年仕事をしていただいている方が4人、冬だけという方が2人という状況で、昨年の売上は約800万円です。これまでは失敗ばかりで、成功した部分というのは非常に少ないのですが、紙を漉くときに失敗してしまうといったことは、良い紙をつくることの土台になっていると思っています。紙の原料は、失敗しても、もう一度たたきなおして、また使うことができます。

来年1月に、武蔵野市で開かれる生活工芸展に出展します。和紙の糸から着物をつくり、相当良い評価を得ていますし、工芸展に向けてパッチワークをやったりしています。これからもそういう部分を含めて、和紙に付加価値を付けて行くといったことをやってゆきたいと思っています。

地域活性化体験研究発表会から (その2)



▲片桐三郎さん



▲小国和紙を通していろいろな人が訪れます。ジルベルト・オベールさん

太郎丸地域おこし推進 委員会の活動

高橋 一巳

太郎丸には「とうぎーい！」で始まる巫子爺があります。部落の大切な財産であり、また町の大切な財産であると思います。その保存会や、保存会の仕事である春祭がマンネリ化しているとか、後継者不足や運営に悩んでいるといった状況にあります。戦後には一斉を風靡した春祭も、時代の波に押し流され、35年には幕をおろしました。46年には、町当局の働きかけと、村としてもなくしては困るということで復活することとなりました。翌年から我々の年代が、古老から手踊りを修得し、52年からは小学生からも参加していただき今日にいたっています。春祭は毎年4月中旬の日曜日に行われ、その約1ヶ月前から練習が始まります。子供達が祭を楽しみに集まり、真剣に練習する姿を見ると、目頭の熱くなるおもしろいと思います。



▲高橋一巳さん



▲巫子爺競演もあり伝統芸能の真価が再認識されました。

また子供達も祭に参加することにより、集落の一員であるという自覚と、太郎丸を誇りに思ってくれるのではないかと考えています。舞台にあがるという目的に向かって、老人も、我々の年代も、子供達も、心をひとつにして、教え、教わっている姿は、世代間を超えて、素晴らしいコミュニケーションの場になっていると確信しております。その場から生まれてくるものは、何事にも代えがたい尊いものがあると思います。経済が豊かになった反面、心がますます狭くなったといわれる今日、その意味において、祭が大きな役割を果たしているという気がします。3年前から村の若集集が祭から手をひいてしまい、次の世代を背おってもらわなければならない人達だけに、残念な思いです。祭が衰退することは、村の衰退を意味しているような気がしてなりません。活力のない村、楽しみのない村にしないように、我々の手で、しっかりと支えていかなければならないと思います。昨年の7月より町企画課からの話で、13名のメンバ

一からなる地域おこし推進委員会が発足し、農研センターの先生方の指導を仰ぎながら、座談会、ワークショップ、資源の掘りおこし、村の意識調査を行いました。アンケートづくりから集計に至るまで、会合、会合で、メンバーがそろわず話合いが進まないといった状況もうまれ、継続することの難しさといったものを感じました。最終的には、意識調査の結果をまとめ大字に報告しました。その中で盆踊りを昔のように賑やかにするにはという質問に、民謡流しをやってはという回答がいくつかあり、早速取り上げて実施したところ、近年にない盛り上がりを見せ、村中ひとり残らず参加したのではないかと思いますほどの盆踊りとなりました。

自分達が楽しみながらやるのであれば長続きしませんし、楽しみながらやるのが結果として村おこしの役にたつのであれば、それが一番自然で良い形ではないかと思えます。

下村十五日会の活動

永見慎一郎



▲永見慎一郎さん

十五日会は、10年前、夏休みに子供育成会で親子一緒に海水浴にいった際、父親ばかりが集まってビールを飲みながら話しているうちに、部落の中でみんなが心に思っていることを話す機会がないのではないかと、ということでお盆に神社の境内で、焼肉をやりながらうさばらしでもしよう、というようになことで始まったものです。



▲錦鯉に負けずに空を泳ぐ鯉のぼり

今年は途中で雨がふり大変でしたが、過去10回、天候には恵まれていました。

体験発表の話があった時、私達のような酒飲みの会が、このようなどころで、なぜ発表をしなければならぬのかと考えたのですが、私達の会は、そうこうしているうちに、みこしやろうということで始め、これは、子供を中心にしてお盆に騒ぐということで、部落では毎年8月7日に風祭をやっていましたが、みんなサラリーマン化してきており、7日に確実にできるということがないわけで、7日に一番近い日曜日にしてほしいということで、部落の協議会に働きかけ3年前から日曜日に行なっています。また、鯉のぼりですが、私も子供が大きくなり、鯉のぼりもたんすの奥でほこりをかぶっておりましたので、鯉のぼりをあげようという話をしました。何年も話をしていううちにだんだん機運が盛り上がり、昨年からは鯉のぼりをあげるようになりました。鯉のぼりの数は予想以上に集まり、自分達も驚いたものです。

何をやるにも、地域のみなさんの考え方がわからない。昔は田んぼに行くにもみんな歩きだったが、今は、車でずっと通り過ぎて行き、誰が運転していたかもわからない。そんな中でこのような会をつくったのですが、年齢は25歳から50歳くらい。私自身仲間になっていると、こんな考え方もあるかなあと思うことがあります。現在のメンバーはここに生活基盤を持つ人達ですから、これからも続くものと思いますし、ここに呼ばれたのが鯉のぼりをあげたせいかなあとも思いますし、また、来年は部落待望の渡海新橋が完成しますので、その時には是非鯉のぼりをあげたいと考えています。

小国町商工会青年部の活動

北原 信義

現在青年部は会員23名、その半数近くは40歳以上です。高齢化で、今悩んでいます。地域活性化の活動ということで、「くらしの知恵講習会」というのを、年3回3ヶ所各部落の公民館にお邪魔し、ただ商品を売るだけではなく、自己のPRと地域のみなさんとのコミュニケーションを大切にということで始めました。職業上身につけた知識や技術をお教えするという事で、たいへん好評をいただいております。一昨年全部落を周り終えましたが、中には、いくら待っても総代さんの奥さん一人しか来ない。あとで聞いたら、商工会の若い衆がみんなを公民館に集めて、何かを売るらしいという話になっていたということで、PR不足だったわけですが、それからは広報車をだして部落の中をくまなく廻るようになったというにが経験もあります。昨年からはちょっと趣向をかえまして、ご婦人が多いので、職人の料理講習会を兼ねた試食会も開き、好評を得ております。

また、住宅地図入りの電話帳を53年から全戸配布しておりますが、これも当初はプロの業者がはいりまして、非常にスポンサー料が高かった。これを何とか青年部で作れないものかということで、業者とも話し合いがつきまして、青年部で作成配布しております。

空き缶リサイクル運動の話ですが、行政にもお願いをしまして、空き缶の集積基地をもうけ、各部落にも空き缶の入れものを設置していただき、青年部の会員が分担してこれを自分達の車で集めて廻るということをやりました。中には食品を扱っている部員もあり、夏場には、集めた空き缶が非常に臭い、やめたいという声もでまして、自動車関係を扱う部員もあり



▲北原信義さん



▶重宝しています
住宅地図入電話帳

ますので、中古のトラックをむりやり寄附させて、それで集めて廻ったということもありました。そうこうしているうちに行政の方でやるようになり、これも、住民の分別収集への意識を高めるのに一役かったのではないかと考えています。

青年部もこれからどうあるべきか暗中模索の状態にありますが、自分達の足元をみつめるのも大事なことではないかということで、小国を知り小国を語ろうではないかという会を発足しまして、役場の大久保地域振興課長、芸術村の西山三郎先生を講師に懇談会を開き非常に勉強になりました。これも単発で終わらせないよう継続して行ってゆきたいと思っております。また、先に町会議員のみなさんに今後の小国町の動向や産業についてのアンケートをお願いし、来月には結果を機関紙に発表する予定で、懇談会も計画したいと思っております。

▶小国和紙、髻女、渋海川シンポジウム、巫子爺サミットなど、地域の活性化に深いかかわりを持つ文化活動に取り組む
～機関誌「へんなか」

小国芸術村の活動

高橋 実

小国芸術村現地友の会は発足して3年目になります。活動の中心は機関紙の「へんなか」の編集になります。

へんなかという、小国の人は誰でもわかりますが、町外に出ますと意味がわからないということで、質問されます。昭和30年代を境に我々のうちの中からいろり＝へんなかが無くなりました。燃料が変わり、薪炭がプロパンガスとなつていろりの必要が無くなったわけですが、しかし、別の面から問題にしなければならないことがあるのではないかと、ということからこの雑誌が出来たわけなんです。つまり、へんなかが無くなることによってそのへんなかの廻りでお茶を飲みながら交わした団樂の場が失われてしまった。会の目的である村の変化というもの…。文化というものはお金にならないのですが、それぞれの地域に住んでいる以上は、生きていく上で、その地域の文化を血や肉にしているわけですから、お金だけで地域というものはいきいきとしたものにならないので、この地域の文化を掘りおこしてゆくことがこの雑誌の意



▲高橋 実さん



図したところであるわけです。

今回第4号では、先に話が合った巫子爺をとりあげたわけですが、取材の過程でいろいろ話を聞くと、太郎丸の高橋一巳さんのお父さんですが、春になると、出稼ぎにいらしても、巫子爺の練習や芝居のために帰ってきたということでした。一銭のお金にもならないのにわざわざ高い旅費を使って帰ってきたという…。また、法末の神楽で、内山松太郎さんからうかがった話ですが、大正の始め頃、野良仕事を早めにきりあげて、歩いて1時間かかる小千谷市の市の沢にいうところに、神楽を何人かで習いにいったということです。市の沢では、蠟燭一本の時間しか教えてもらえないということで、わずか1時間くらいの練習のために、毎日歩いて1時間の道を通ったということです。これが現在の地域おこしの元になっていると思います。お金だけでなく、我々の文化とか心の問題を重視して活動してゆこうというのが、我々の会の目的なのです。昨日も第5号のための子供の遊びの座談会を開きましたが、年配の方は、昔、非常にたくさんの遊びを持っていたわけですが、今の子供は誰もやらない。なぜ、昔のそういう豊富な遊びが無くなってしまったのか、という話が最後に出たわけですが、これも、こういうことを含め、文化による町の地域おこしを進めてまいります。

渋海川川下り 実行委員会の活動

中村 雅己

川下りは、昨年、今年と2回行ったわけですが、これは、5年前から行っているサマーフェスティバルのひとつのイベントとして実施したわけなんです。ですから、川下りの話の前にどうしてサマーフェスティバルが始まったのかということに触れてみたいと思います。

以前は非常に活発だった各地区の青年団活動が下火になって、全町的なお祭りのようなものが何かやれないだろうかという声があがってきまして、最初は行政の教育委員会が中心だったわけですが、サマーフェスティバル実行委員会というものが組織され、その委員会の中でいろいろ意見を出し合いました、何かイベントをやっている



▲中村雅己さん



▲アイデアを凝らした筏の集まる川下りのスタート地点

こうということで、第1回は森林公園で、近隣市町村から生バンドを呼び、演奏会を開きました。2回目は地域おこしをテーマにパネルディスカッションを行いました。3回目では、いろいろな反省から何か物足りない、受け身のものでなくて全員が参加できるものということで、小国最大の〇×クイズと、我が町一番というものを行いました。4回目は、他にもっと全町的に盛り上がるものはないか、小国には豊かな自然がある、父なる八石、母なる渋海川、これを利用しない手はないのではないかと、ということになり、渋海川の川下りというアイデアが出てきました。なにしろ初めてのことで、我々の方でもいろいろとまどいが

ありまして、他にやっているところはないかということで探し、いろいろ話も伺ったり、下見をしたりして、準備段階で夏の炎天下に草刈りをしたりで、苦労もあったのですが、予想を上回る参加があり、また大勢の町民のみなさんに見ていただいて非常に盛り上がりしました。今年から「渋海川に清流を取り戻そう」をテーマとして、川との関わりをもっと深めていこうということで、筏下りの外に子供達に川原を一部開放して魚のつかみ採りとか宝さがしを行いました。それとカヌー教室ですが、このスポーツを地元の若い人達にもやらしてもらおうではないかということで、やったわけです。

いろいろ問題もありまして、教育委員会の方から各部落に働きかけてもらい実行委員会を組織するメンバーを出してもらったわけですが、中には部落からたのまれて、出ているという人もおりまして、やる気のある人、無い人があり、まとまるのに苦労したという経緯がありました。そういうことで、回をかさねるごとに実行委員のメンバーも減ってきてまして、ただ、やる気のある者が残ってきたということでもあるわけで、各部落の代表にとらわれずにやる気のある人にはどんどん参加してもらおうと思っています。現在メンバーは25名うち女性が5名です。川との関わりを深めて行こうという運動がさかんになってきております。小国町でもこの渋海川との関わりを一層深めるためにも、この川下りを定着させたいと思っています。その外にも花火大会を復活させたいとか、八石山をメインにイベントをやりたいとか、いろいろアイデアが出ております。具体的にはなっていませんが、今後そういうことを検討して活動の輪を拡げてゆきたいと思っております。

先月号、今月号で取り上げた地域活性化体験研究発表の記事は、紙面の都合もあり、広報編集係により発表内容にできるだけ忠実に加筆、割愛させていただいております。

ロマンモティエ訪問記 vol.3

訪問記 Vol.3 スイス見たまま 聴いたまま③ カウベルが鳴り響く 高原牧場

昼食は、街道から車で20分程の高原牧場レストラン。

標高1,000mの美しい眺めの高原では、放牧の牛ガのどかに群れをなし、首に付けたカウベルがカラ、コロンと高原をわたる風に鳴り渡っていた。

山小屋風のレストランは、週末の土曜日とあって、家族連れでたいへん賑わっていた。

スイスで最初の食事は、地元の特大ステーキとワインで美味しくごちそうになった。

秋たけなわの美しい町、ロマンモティエは素晴らしい一言でつぎる本当に良いところだ。

昼食のあと一行は、ジュラ山中にあるオルゴール博物館に案内された。中世のヨーロツパであいついだ戦火から逃れて、ジュラの山深く層を構えた人たちが築いた産

スイス・ポー州ロマンモティエとの国際姉妹都市提携の経緯⑧

1989年6月/スイスワイン、グランブカール(赤)、デュリュ(白)の輸入が実現、今春オープンしたステーキハウス「八石」で、スイス在日大使館一等書記官(商工経済担当)ホーデル氏を招いてワイン開封式を行う。

9~10月/姉妹提携3周年を記念して版画家、故ビエール・オベール氏の作品展を小国芸術村会館で開催。

9月10日、オベール夫人のジルベルト・オベールさんを招いて、オープニングセレモニーを行った。

10月/小国町長を団長とする一行4名の公式訪問団がロマンモティエ町を訪れ、友好親善を深め、早い機会での日本訪問を要請した。

※友好姉妹都市盟約締結後、町長の旗、児童・生徒の絵の相互交換等の交流を進めている。今後は、文化、経済、人の交流を一層推進して、国際的な友好親善を更に深めたいと急願しています。



カウベル、が鳴り渡る高原牧場で、牧野町長(左)と大橋義会議長

業がオルゴールをはじめ精密工業とのこと。世界に冠たるスイス時計などの製作技術の発祥の地と聞いた。

年代物のオルゴールから現代のオルゴールまでが奏でる美しいメロディーに、スイスの歴史を聴く思いであった。

ロマンモティエからの公式訪問は来秋実現

その日の夜、公式訪問のセレモニーが庁舎の議場で行われた。

テーブルの真中には、昨年の民間訪問団が訪問記念に贈った、小国和紙の造花が飾られていた。暖かな心遣いが伝わってきた。

セレモニーでは両町長が挨拶し、それぞれの出席者が紹介された。

両町長とも、今後ますます交流の輪が強まり、広がることを願っていることを強調。特に牧野町長は、早い時期にロマンモティエ町からの公式訪問実現を懇請しました。



これに呼んでアムステイン町長は、来秋にはぜひ訪れたい旨の意思表明がありました。

セレモニー会場を近くのレストランに移し、夕食を取りながらの和やかな談笑が夜遅くまで続いた。

翌朝は、快晴の日曜日。教会のミサに訪れる家族連れと行き交いながら、アムステイン町長の案内で町の中を散歩した。

朝の日差しの中を散歩していると、改めて本当に絵に描いたような美しいロマンモティエに気付く。この町に育まれた文化に思いを馳せ、または是非訪れたいものと心に刻んだ。



ロマンモティエの町並を背景に。中央の人物は鈴木商工会長。天候に恵まれた公式訪問であった

森と湖のロマンを秘めた国、スイス

美しい光景はロマンモティエに限らない。実質4日間という今回のスイスの旅で、訪問団一行の共通した認識である。

ジュネーブからチューリヒまでは、特急列車で3時間近くを要したが、車窓のひとコマ、ひとコマが全て絵になる光景だ。

手入れの行き届いたブドウ畑がすぐ線路の脇から連なり、ゆるやかな丘に広がる牧場では草をはむ牛がたわむれ、碧い湖にヨットが浮かび、紅葉の山脈を映しだしていた。街並みの光景もどことなく落ち着いた雰囲気があった。

伊野さんの案内でジュネーブの夜の街を散歩したとき、そのことを聞いてみた。

スイスに限らずヨーロツパでは、街並みの景観を保持するために、建物の外壁や屋根の色を規制しているところが多いとのこと。

ジュネーブではネオンサインも同様、色と高さが規制されていると聞いて納得した。

ビトー・ベルティンさんの案内で、唯一行政視察をしたチューリヒ郊外のワリセレン町で、町の幹部から聞いた長期計画に基づく地域づくりでも、そのことを強く感じた。

国土の広さは日本の10分の1、人口は20分の1という小さな国。

経済的な豊かさの指標となる一人当たりのGNPは10年来、世界一を誇るスイス連邦。

まさにスイスは森と湖とロマンを秘めた美しい豊かな国である。

小国芸術村の取り持つ縁でできた国際姉妹都市スイスのロマンモティエ。1万5,000キロを隔てた、遙か遠いヨーロツパの田舎町との交流は今、着実に進められている。

ロマンモティエ教会のブドウ畑のブドウで造ったワインが、八石ステーキハウスのテーブルを飾り、ロマンモティエの自然をこよなく愛しつづけた版画家の作品が、小国芸術村会館に展示される。国際化時代にふさわしい数々の交流が進められている。

これからは、人の交流を徐々に広げていくことが大切だ。「百聞は一見にしかず」である。

公式訪問を終えた牧野町長は、これからは町民の姉妹都市訪問、両町の青少年のホームステイ等の相互交換交流や研修する機会を設けたいと、国際交流をますます推進していく考えを明らかにしている。

平和国家スイスと日本との友好交流にとって、両国の小さな町と町との草の根交流が、その一翼を担っているのである。(終)

文：大久保重嗣地域振興課長



ビトー・ベルティンさんが生まれたワリセレン町での行政視察。スイスの中でも土地利用計画が、実にうまく進められている

小国和紙と生活展

今月12日から、武蔵野市民文化会館(東京都)で「小国和紙と生活展」が東京で開催されます。

この展覧会では、和紙の製造工程の紹介、紙漉き体験等により、小国和紙を市民に紹介します。

小国和紙で作った紙布製品、ステンドグラス調の和紙、和紙をふんだんに使った模擬住宅など和紙製品の新しい可能性についても紹介します。

武蔵野市と小国町は、昨年9月1日に友好都市となり、今回の展覧会は、11月の青空市に次いで友好交流の第2弾となります。

なお、この展覧会は、3月に開催される「おぐに雪まつり」のイベントの中でも開かれる予定で、この時はツアーが計画され、武蔵野市からたくさんの市民が小国町を訪れる予定になっています。

「小国和紙と生活展」

□平成2年1月12日(金)~19日(金) (17日(木)は休館日)

午前9時30分~午後6時

□武蔵野市民文化会館 (東京都武蔵野市中町3-9-11)

☎0422(54)8822

☎入場無料



13万市民のふれあいマーケット・第9回むさしの青空市に小国町からも初参加した。



太郎丸郵便局が移転新築

小国町に最初に開局（明治9年7月開局）した太郎丸郵便局（関口正元局長）が、このほど太郎丸地内に移転新築され、12月13日午前、関係者約60人が出席して落成式が行われました。新局舎は、木造一部2階建、延べ床面積253㎡で窓口ロビーを広く、明るしたほか、駐車場も完備されています。18日から、新局舎で業務を開始しています。

建設工事・測量等の入札参加資格審査申請は早目に

町が執行する建設工事や測量等の平成2年入札参加資格審査申請の時期が迫っておりますので、事前に準備を進められるようお願いいたします。なお、平成元年から隔年制を採用しましたので、昨年申請された方は入札参加追加業種が無ければ今回の申請は不要です。（今回の申請対象は、新規と追加業種のみ）

1. 受付期間……2月1日から2月末日まで
2. 提出先……小国町役場総務課
3. 申請書の様式…新潟県様式又は建設省統一様式
4. 有効期間……1年間（平成2年5月1日～平成3年4月30日）
5. 留意事項
 - (1) 入札参加資格審査申請書と経営事項審査結果通知書は、必ず分冊のこと。
 - 第1号様式 建設工事入札参加資格申請書
 - 第2号様式 営業所一覧表
 - 第3号様式 直前2年の各事業年度における契約実績
 - 第4号様式 工事経歴書
 - 第5号様式 職員数を記載した書面
 - 第6号様式 技術職員名簿
 - 第7号様式 営業用機械器具を記載した書面
 - 添付書類 経営事項審査結果通知書（2部）・年間委任状（該当者）・建設業許可証明書・納税証明書・退職金共済組合事業加入証明書又は未加入申立書
 - (3) 測量・建設コンサルタント等に係る資格審査の申請書類
 - （第1号様式、委任状以外は写しでも可）
 - 第1号様式 測量・建設コンサルタント等入札参加資格申請書
 - 第2号様式 営業所一覧表
 - 第3号様式 直前2年の各事業年度における契約実績
 - 第4号様式 契約実績一覧表
 - 第5号様式 使用人数を記載した書面
 - 第6号様式 技術者経歴書
 - 第7号様式 営業用機械器具を記載した書面
 - 添付書類 法規定による通知書（測量業、土地家屋調査士、一級建築事務所）・納税証明書・財務諸表・建設コンサルタント、地質調査業者現況報告書（第17号様式）・補償コンサルタント現況報告書（第15号様式）・年間委任状（該当者）

1日1円の安い掛金 見舞金は最高100万円

交通災害共済に家族そろって加入しましょう。掛金は1人1年間わずか350円。見舞金はその治療期間、治療日数によって2万円から100万円（死亡の時）まで支払われます。

お年寄りであり出歩かないからとか、幼児だから…ということはありません。車に乗せてもらって事故にあうというケースもあります。現在、町民の9割以上の方が加入しており、63年度中の事故により見舞金の給付を受けた方は現在20人、給付額は117万円です。事故にあわれた方は、まず電話でご相談ください。加入したい方も連絡先は役場総務課（☎95-3111）

事件・事故 見たら聞いたら110番

1月10日は「110番の日」です。「110番の日」はみなさんに110番通報のシステムを理解していただき、事件や事故を見たり聞いたりした時に一刻も早い通報で事件の解決を図ろうと設けられた制度です。

最近では、新幹線や高速道路が整備され、犯罪も特定の地域だけでなく、数県にまたがるような悪質なものが増えています。

このような市民の平和な暮らしを脅かす悪質な犯人をつかまえるには、事件が発生した時の素早い通報が最も大切です。

事件や事故を知った時は、ためらわず素早い110番通報をお願いします。

柏崎警察署では、みなさまのご協力をいただき、事件や事故のない明るく住み良い柏崎にしようと努力しています。

柏崎警察署 ☎0257(24)2111



冬期間の火災予防は

- ・暖房器具、ガス、灯油などの取り扱いには、十分注意してください。
- ・雪降ろしの際に、プロパンガスボンベの接続ホースを傷つけることがありますので、注意してください。
- ・雪のために、風呂がまや湯沸器の煙突が折れたり、埋まったりしていないかよく点検してください。
- ・火災の際に、雪によって出入口をふさがれていると、避難できなくなることがあります。万一のため避難口は二ヶ所以上確保してください。
- ・冬期間は、消防署でも消火栓や防火水槽など水利の確保にはいろいろな対策を立てていますが、皆さんも消火栓等の付近に駐車をしたり、雪を積み上げたりしないようご協力をお願いします。



1月の納税

- 固定資産税………第4期
- 国民健康保険税………第10期
- 国民年金………第10期
- 保育料………1月分
- 住宅使用料………1月分

年末年始の休日診療

☑12月29日、30日、31日
1月1日、2日、3日
午前9時～11時30分
☑成人健康センター

日曜診療

☑午前9時～正午
☑成人健康センター（法坂）
（急患に限る）

心配ごと相談

☑毎週火曜日（午前10時～午後3時）
☑延命荘（☎95-2027）
相談員 1/23 山崎エイ子
30 飯田 弘二
2/6 中橋 寛
13 中沢誠三郎
20 原 シツ

行政相談

☑2月20日（火）
（午前10時～午後3時）
☑延命荘
相談員 原 シツ

補聴器相談

☑毎週火曜日
（午前10時～午前10時30分）
第1、3月曜日
（午前11時～11時30分）
☑役場（☎95-3111）

交通事故相談

■ 長岡相談所（長岡総合庁舎1階）
☎34-3111
月曜～金曜 午前9時～午後4時
土曜日は午前中
■ 移動相談所
☑2月7日（水）、21日（水）
☑柏崎市役所



新春囲碁将棋大会のご案内

☑1月21日（日）
午前9時～午後4時
☑就業改善センター
参加料…1,000円
（ただし、小・中・高校生無料）
※賞品、昼食用意してあります。
申込み…1月16日（火）までに教委事務局へ（☎95-3111）
◆囲碁の部
■ Aグループ（有段者クラス）
■ Bグループ（無段者クラス）
◆将棋の部
■ Aグループ（高校生・一般）
■ Bグループ（小・中学生）

ことしよろしく
お願いします

昨年同様懐かしい周囲とともに、広報の編集を行っています。いずれ年号にふさわしく落ち着いて、皆さんに読んで楽しんでいただける広報づくりができるのではと思っています。ご要望がありましたら遠慮なくお寄せください。

ハイ県くらしのダイヤル（1月分）

——ダイヤルしましょう ☎025-285-7000——

訪問販売のトラブル防止	1月8日～1月16日
子供の好きな食品の問題点	1月16日～1月22日
消費生活相談事例	1月22日～1月29日
ビデオテープの保管方法	1月29日～2月5日

※緊急な消費生活情報は予定を変更することがあります。
※情報は正午に切り替えます。